

セルロイドハウス横浜館 バーチャルミュージアム

セルロイドハウス横浜館 収蔵品紹介シリーズ2

岩井ボタンコレクションの紹介

2025年4月

横川正博(セルロイドハウス横浜)

1. 岩井ボタンコレクションの成立の経緯と特徴:

セルロイドハウス横浜館は、2005年3月の開館より2024年3月の閉館に至るまで、様々なセルロイド所蔵品の展示を行ってきた。展示されたセルロイド製品の多くは、2000年に発足したセルロイド産業文化研究会(セルロイド製品、金型、関連文献及び図書、雑誌等の収集を進める)の活動の一環として収集されたものであり、ボタンの収集もここに含まれていた。

セルロイド製品及び材料の工業生産は2000年以前に終了している。従って2000年から本格的に開始したセルロイドボタンの収集作業においてはメーカーからの直接購入ではなく、入手ルートは骨董品展示会、骨董商、美術工芸品の関係者を通しての購入、ボタン業者の売り込み、また岩井の海外骨董市訪問の際の購入に依るものとなった。

こうした集められたボタンコレクションは、セルロイド製品を収集するという目的で形作られたものであり、服飾関係者によるボタン蒐集ではない。従いコレクションの中には、装飾的要素の多いボタン(アンティークボタン)のみならず、機能的なセルロイドボタン(服飾的要素は少ない)も多く収蔵されている(機能的なセルロイドボタンと云えども独特な形状と色彩を保持していることは注目すべきであろう)。

セルロイドボタンの収集を目指したにコレクションであるが、セルロイド以外の材質のボタンも40%程度含まれていた。セルロイド以外の材質のボタンとしては、アセチロイド(アセテート樹脂)ボタン、アクリル樹脂(PMMA)ボタン、ナイロン(PA)ボタン、他(ガラス等)があった。材質判定の手段がないまま、セルロイドボタンの形態・色彩の特徴を念頭にボタンの収集を行った結果、他材質であるも独特な形状・色彩のボタンが収集されたものであろうと推測される。

2. ボタンコレクションの分類と紹介方法:

ボタン所蔵品を“**素材、構成要素、ボタン穴の位置、形状**”の観点より分類し、タイプ分けした。

分類基準:

① 素材分類(全ボタン) :

プラスチック材質判別装置(注1)を用いて、近赤外線分光法による材料の特定を行った。

測定対象物に近赤外線を照射し対象が反射した光の波形を測定し、その波形を登録波形と照合することで材質を判定する。

(注1:株式会社山本製作所の“簡易プラスチック材料判別装置”である「ぷらしる」を利用した)

プラシルにてセルロイド製品の判定を行った例:添付写真参照(ページ6)

素材分類の結果、岩井ボタンコレクションの全容は以下の通りである。

数量: (組合せボタンの場合、個別であれば外、内それぞれ1つ、つまり2つと数え、組合ったボタンとなれば1つと数えた)

総個数:1,919 個

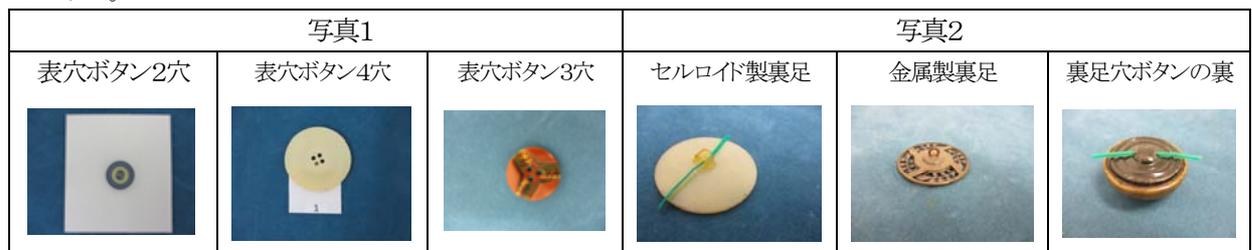
セルロイドボタン	1,165 個(60.7%)	39 Trays + 1 ボックス(紐通し綴り)
アセチロイドボタン	193 個(10.1%)	3 Trays + 1 パネル
アクリル樹脂(PMMA)ボタン	323 個(16.8%)	4 Trays
ナイロン(PA)ボタン	152 個(7.9%)	1 Tray + 1 パック(紐通し綴り)
ガラス, 金属, PP(ポリプロピレン)ボタン	16 個(0.8%)	1 Tray
他(天然材ボタン、判定不可ボタン)等	70 個(3.6%)	1 パック(含む 6 パック)

② 構成要素による分類(セルロイドボタン):

- セルロイドのみで構成されているボタン
- 表面はセルロイド+裏に金具(裏金)によりボタン穴が構成しているボタン
- ボタンは金属で構成され、セルロイドは装飾として使用されているボタン
- セルロイドと他素材(天然素材を含む)が組み合わされているボタン

③ ボタン穴の位置:表穴か裏穴足:

- 表穴:ボタンの厚さ方向に穿孔されているボタン(写真1)、通常2穴、或いは4穴(穴数により区別はせず)、ただし3穴ボタンは1つのみであった(Tray26)
- 裏穴足ボタン(写真 2):ボタン穴はボタンの後ろ側水平に付けられ、厚さ方向に穿孔されていない。ただし裏穴足の種類(トンネル穴=ボタン本体の中に穴を開ける、アーチ足=穴の部分の部分が突起している、など)は分類していない。



④ 形状・模様による分類:、表面模様、など。

- セルロイドのみで構成されているボタン: 表面の形状(扁平か曲線面か)、模様。
- 表面はセルロイド+裏に金具(裏金)によりボタン穴が構成しているボタン: 膨らみの有無、外面の形状(模様の特徴)
- 他すべてのボタン: 表面の形状、模様

整理方法:

ボタンコレクションは、コレクターの間では**Tray**(受け皿)と呼ばれる台紙にボタンを留めコレクションを行っている。ほとんどが単品ボタン(バラ)の集合であった**岩井ボタンコレクション**を、48 Tray + 1パネル + 1 ボックス(紐通し)+2パックに集約した。

3. 岩井ボタンコレクションの紹介:

現在セルロイドハウス横浜館は所蔵品の常設展示を行っていないが、ボタンコレクションについては例外として所蔵品を観覧頂くことが可能である。

また本テーマにご関心をお持ちのボタン関係者、服飾関係者、コレクター他皆様との情報交換及び共同調査研究は大歓迎であり、以下のアドレスにメールにてお問い合わせ頂きたい: celluloidhouse@aol.com

本稿では、素材別に特徴あるボタンの一部を紹介する。

A) セルロイドボタン

セルロイドボタンの特徴:

セルロイドとは、象牙の代替素材として開発された世界初の半合成樹脂であり、着色(染色、塗装)が容易で加工性に優れていた(スタンプ、プレス、押し出しが可能)。この特徴により多くの模倣素材(水牛の角、鼈甲、木材、鋳物、珊瑚、など)として安価なボタン製造に使用された。19世紀後半から20世紀中頃にかけて世界各地で大量に製造・使用されるも、セルロイド素材の可燃性への懸念と新たに開発された他合成樹脂との競合により2000年以降製造されることがなくなった。

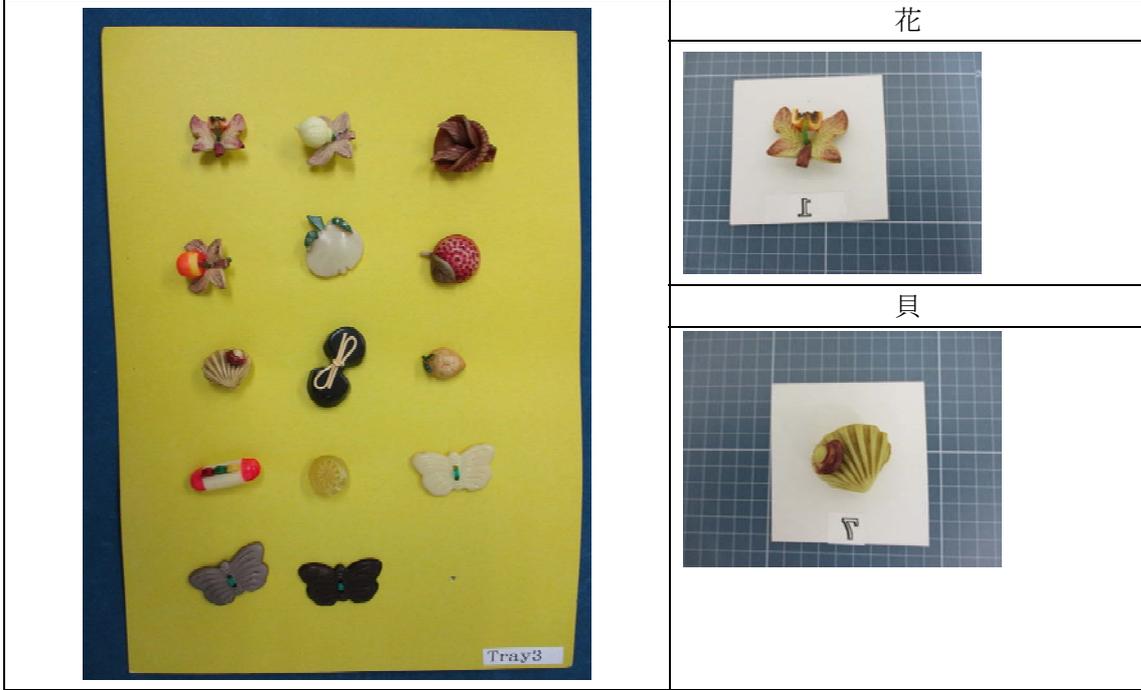
セルロイドボタンの独特な形状、色彩は、ボタンが使用される服装のデザイン、色彩との調和の中で生み出されてきたものであろう。

a-1. 構成要素:「セルロイドのみ」の場合(装飾付きボタン)

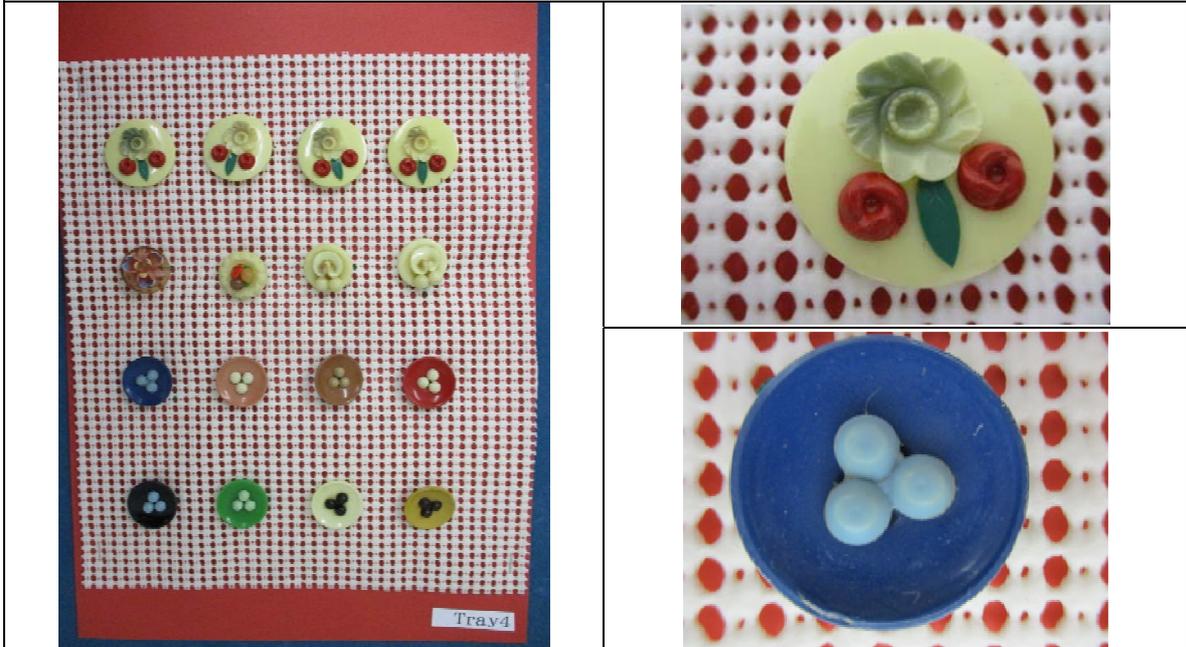
ボタンとしての強度を保つためにある程度の厚さが必要となる。一方セルロイドの高い加工性(アンダーカットの形状も金型製作が可能)よりボタンの形状はバラエティーに富み、着色の用意さより様々な天然素材にそっくりな色調を醸し出されている。

立体ボタン(Tray 1): 自然素材(水牛の角)の模倣、自由な形状(角(つの)型/四角柱型/独楽型/球型/貝型/ドーム型)を持つ (13個 - Tray 1、2)	
	ダッフル(トグル)ボタン
	
	独楽型ボタン
	

裏穴足 形態模倣ボタン：花、貝などの形態を模倣したボタン (14個 - Tray3)



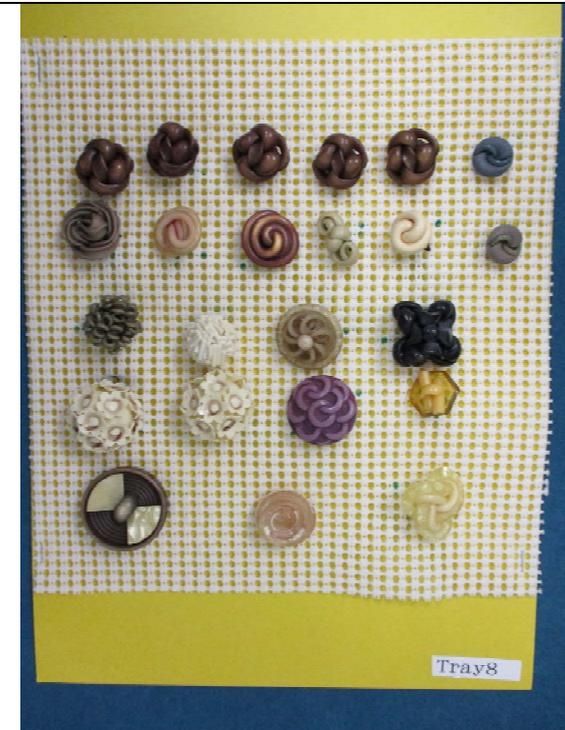
裏穴足 オードブルボタン(32個 - Tray4,5)



裏穴足 スパゲッティ(燃糸)模様(67個 - Tray6,7,8,9)

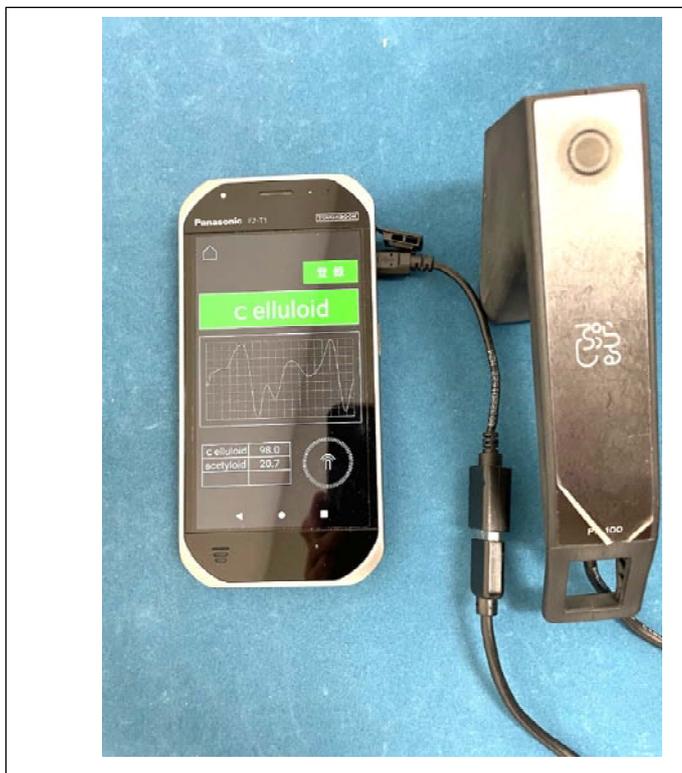


裏穴足 極細模様(上記と同じグループ)



(添付写真) プラシルにてセルロイド製品を判定した例

Celluloid:98%



(次稿 2/3 に続く)